

予 算 要 求 資 料

令和6年度当初予算

支出科目 款：農林水産業費 項：林業費 目：林業振興費

事業名 海外連携等推進事業費補助金

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

林政部 岐阜県立森林文化アカデミー 教務課 電話番号：0575-35-2525(内207)

E-mail：c21907@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 1,170 千円 (前年度予算額： 1,170 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	1,170	0	0	0	0	0	0	0	1,170
要求額	1,170	0	0	0	0	0	0	0	1,170
決定額	1,170	0	0	0	0	0	0	0	1,170

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨(現状と課題)

ドイツにおける林業技術者の養成で優れた取り組みを行っているロッテンブルク林業大学と平成26年11月10日に連携覚書を締結した。その覚書に基づき教育ノウハウの取得や、学生相互交流を覚書締結から5か年にわたり行っていたが、令和元年に覚書の延長を行い、引き続き5年間継続して連携を行うこととなった。

(2) 事業内容

新たに更新した連携覚書において、ロッテンブルク林業大学と「教育訓練を目的とした学生の相互研修及び交換留学」を新たに明記しており、重要なプロジェクトの林業・森林環境教育・木造建築・野生動物管理の4つのプロジェクトに本学の学生を派遣する。

なお、新型コロナウイルス感染症で海外渡航が不可能となり令和2年度から令和4年度途中まで事業が中断されていた。現在、事業は再開されているが、中断していた分の連携活動を補うため2年分要求する（派遣学生5人×2年分）。

また、ロッテンブルク林業大学からも、本学へ学生が派遣される。

(3) 県負担・補助率の考え方

森林文化アカデミー運営に関わることのため、県において全額負担することが妥当

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
負担金補助及び交付金	1,170	ドイツ・ロッテンブルク林業大学のプロジェクトに参加する学生に対する補助金 @117,000円×10名
合計	1,170	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 後年度の財政負担

ロッテンブルク林業大学との連携覚書期間は、令和6年までの期間であり、令和6年10月に協定を5年間延長する見込み。

県単独補助金事業評価調書

新規要求事業

継続要求事業

(事業内容)

補助事業名	学生海外派遣事業費
補助事業者（団体）	学生 （理由） ロッテンブルク林業大学との連携の一環として当学学生をロッテンブルク林業大学とのサマーセミナー等へ派遣しているが参加経費のうち渡航経費が高額となるため補助する。
補助事業の概要	（目的） レベルの高い林業技術者等を養成するため、森林管理・木材利用の最新の知識と経験を実地で学ぶ機会を与える。 （内容） ロッテンブルク林業大学が日本の大学生等を対象に企画運営するサマーセミナー等に参加を希望する当学学生の渡航・滞在経費の一部を補助する。
補助率・補助単価等	<input checked="" type="checkbox"/> 定額 定率・その他（例：人件費相当額） （内容） 渡航・滞在経費の1/2相当分を補助 （理由） 渡航・滞在経費を算出した上で県内教育機関の先例等と比較し決定。
補助効果	ドイツ主要産業の一部であるドイツ林業の生の姿をサマーセミナー等を通じて直接学ぶことで、アカデミー卒業生に期待される創造的で提案のできる新たな働き方や地域とのつながりの創造等ができるキーパーソンとして、世界的な視野をもった人材の育成を行う。
終期の設定	終期 令和6年度 （理由） ロッテンブルク林業大学との連携覚書締結期間

(事業目標)

・終期までに何をどのような状態にしたいのか 意欲ある学生はサマーセミナー等に参加しドイツ林業を学ぶことが当然と考えるような林業知識・技術の最先端事例を学ぶ土壌が醸成されるとともに、教育レベルの向上、技術者レベルの向上を図る。

(目標の達成度を示す指標と実績)

指標名	事業開始前 (H27)	R4年度 実績	R5年度 目標	R6年度 目標	終期目標 (R)	達成率
森と木のエンジニア 科県内就職率	59	68	80	80	80	85%

補助金交付実績 (単位：千円)	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度
	585	585	0	0	351

(これまでの取組内容と成果)

令和2年度	<ul style="list-style-type: none"> 取組内容と成果を記載してください。 新型コロナウイルスのため、海外渡航が困難だったので、実績はない。
	指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %
令和3年度	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルスのため、海外渡航が困難だったので、実績はない。
	指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %
令和4年度	<ul style="list-style-type: none"> ロッテンブルク林業大学のサマーセミナー及び森林環境教育セミナーにアカデミー学生が参加し最新の知識と経験を実地で学ぶとともに、連携強化を図ることができた。
	指標① 目標：80 実績：68 達成率：85 %

(事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> 事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない 	
(評価) 3	ドイツ・ロッテンブルク林業大学との連携覚書期間中に、学生交流の実績が確実に行われており、今後の有能な林業技術者教育につながっている。
<ul style="list-style-type: none"> 事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3：期待以上の成果あり(単年度目標100%達成かつ他に特筆できる要素あり) 2：期待どおりの成果あり(単年度目標100%達成) 1：期待どおりの成果が得られていない(単年度目標50~100%) 0：ほとんど成果が得られていない(単年度目標50%未満) 	
(評価) 2	令和元年度は学生6人、令和4年度は学生4人の参加があった。より多くの学生が先進的なドイツ林業に直接触れることで、広い見識を有する技術者育成につながっている。
(評価) 2	サマーセミナー等に参加した学生は報告会を行い、他の学生と情報共有するとともに、次年度以降のサマーセミナー等に自ら参加し学びたい学生の志気向上が図られる。

(今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> 事業が直面する課題や改善が必要な事項 当該補助額が、サマーセミナー等参加負担額に対し、十分な負担軽減となりうるかどうかの実証。 本学学生のロッテンブルク林業大学サマースクールについては、国内他大学との共同実施を企画しているが、学生が負担しなければならない渡航経費の高額を理由に、希望できない学生が多い。「現地現物主義」を標榜する本学としては、真に希望する学生にはドイツ林業を直接経験する手法を構築することが必要。
--

(次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 令和7年度以降のロッテンブルク林業大学との連携の継続を検討する中で、当該事業の実施についても検討を行う。 学生相互交流について、ロッテンブルク林業大学側から学生の来県希望があれば引き続き受入れをすると同時に、本学のドイツ林業の研修参加希望学生には、渡航経費の軽減策を講ずることで、参加を促す。
--